

1. 単元名 「県の地図を広げて」

2. 単元づくりのポイント

(1)教材化

本単元では、国内における自分たちの県の位置、隣接する県との位置関係、県全体の地形や産業、交通網の様子や主な都市の位置などを基に、県の様子について理解するようにします。47都道府県の名称と位置については、47都道府県で構成されていることや、各都道府県の名称や日本地図上の位置などを基に、その名称と位置を理解させることが大切です。また、都道府県の名称に使用される漢字は、4年生までに指導することとなっているため、指導時期については、国語科との連携が必要です。

(2)学習過程

本単元では、我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、例えば、自分たちの県が日本のどこに位置しているのか、どのような地形が見られるか、主な産業はどこに分布しているか、交通網はどこに広がっているか、主な都市はどこに位置しているかなどの問いを設けて調べたり、それらを総合して県の地理的環境の特色を考えたりして、調べたことや考えたことを表現するようにします。実際の指導に当たっては、県の地図や地図帳を十分に活用することが大切です。例えば、地図帳で自分たちの県の位置を言い表す活動、県の白地図に地形や産業の分布、交通網、主な都市の位置を書き表す活動、47都道府県の位置を地図で確かめ、その名称を白地図に書き表す活動が考えられます。

(3)学習活動

本単元では、地図帳や立体模型、航空写真などの資料で調べ、県の白地図などにまとめることや、47都道府県の名称と位置について、地図帳などで確かめたり、日本の白地図などに書き表したりするようにします。ここでは、地図帳などを用いて、位置や地形、広がりや分布などの情報を読み取る技能、名称と位置を確かめながら、調べたことを白地図などにまとめる技能などを身に付けるようにすることが大切です。

3. 単元目標

神奈川県のように、我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地図帳等の資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取ってまとめ、神奈川県の様子を捉え、神奈川県の地理的環境の特色を考え表現することを通して、神奈川県を地理的環境の概要や、47都道府県の名称と位置を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し解決しようとする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国における神奈川県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などについて、地図帳等の資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、神奈川県の様子を理解している。 ②調べたことを白地図や文などにまとめ、神奈川県の地理的環境の概要や、47都道府県の名称と位置を理解している。	①我が国における神奈川県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して問いを見出し、神奈川県の様子について考え、表現している。 ②他県との位置関係や県内の地域の特色を、比較・関連付け、総合などして、神奈川県の地理的環境の特色を考え表現している。	①神奈川県の様子について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。

5. 単元の構想と評価(7時間扱い)

単元の構想と予想される児童の反応	備考(○)と具体的評価規準
<p>①②神奈川県的位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網などに着目して、問いを見出し、神奈川県の様子について、予想や学習計画を立て主体的に学習問題を追究し、解決しようとするようにする。</p> <p>47都道府県の名前と場所を知ろう</p> <p>「山」という字が付く県はどこでしょう？</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県、山梨県、富山県、和歌山県、岡山県、山口県 <p>「県」が付かないところはどこでしょう？</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道、東京都、大阪府、京都府 <p>周りに海がない県はどこでしょう？</p> <ul style="list-style-type: none"> 栃木県、群馬県、埼玉県、山梨県、長野県、岐阜県、滋賀県、奈良県 日本にはたくさんの都道府県があるね。 地図帳で調べて白地図に名前を書いていこう。 関東地方や中部地方といった分け方があるんだね。 <p>神奈川県の白地図</p> <ul style="list-style-type: none"> 犬の形に見えるよ。 ・ラクダの形にも見えるね。 これは神奈川県の形だよ。 <p>地図帳</p> <ul style="list-style-type: none"> 神奈川県は日本のどこにあるか地図帳で調べてみよう。 自分たちが住んでいる神奈川県について知りたいな。 <p>(単元を見通す学習問題) 神奈川県は、どのような様子なのだろうか</p> <p>何をどのように調べるのか学習計画を立てよう</p> <p><調べること></p> <p><u>県の地形や土地利用の視点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 川崎市と同じように、高い所や低い所には、森林や緑地、田畑や工場、お店や住宅など、色々なことに利用されているんじゃないかな。 <p><u>県の主な産業の視点</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 県内には、農業や工業がさかんな地域がどこにあって、どんなものが作られているのかな。 	<p>○本時はクイズのように楽しみながら47都道府県の名称と位置を知る活動が考えられる。</p> <p>○白地図に都道府県名を書き込んだり、色を塗ったりするようにする。</p> <p>○地図帳や掛図で神奈川県の位置を確認する。</p> <p>(思-①) 神奈川県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網などに着目して、問いを見出している。</p> <p>○3年生の身近な地域や市の様子の学習を生かして、学習計画を立てるようにする。</p> <p>○人口分布を神奈川県の全体的な特徴としてとらえられるように、人口別に全ての市町村を塗り分けた地図を用意しておく。</p>

県の交通の広がり の 視点

- ・ 鉄道や道路はどのように通っているのかな。

<調べ方>

- ・ 地形図や土地利用図を使って調べよう。
- ・ 資料を使っておもな農産物や工業製品などの産地を調べよう。
- ・ 交通の様子を示した地図を使って調べよう。

みんなで学習の計画を立てたよ。これから神奈川県の様子について視点を基に調べていこう。

③資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、白地図にまとめ神奈川県の地形や土地利用の様子を分かるようにする。

神奈川県の地形や土地利用は、どのような様子なのだろうか

神奈川県の地形や土地利用について白地図にまとめよう

地図帳

副読本「私たちの神奈川県」

神奈川県の白地図

- ・ 主な山や川、湖を白地図に表そう。
- ・ 山地や平地の色を塗り分けよう。
- ・ 東側に平野が広がって、西側は山が多いね
- ・ 川崎市と同じように土地が高い所は森林が多く、土地が低い所は住宅が多くなっているね。
- ・ 川崎だけでなく、横浜も海の方は、工場が広がっているね。

神奈川県には様々な高さの土地があり、高い所や低い所など、場所によって色々な土地の使われ方にちがいがあるんだね

④資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、白地図にまとめ、神奈川県の産業の様子について分かるようにする。

神奈川県の産業は、どのような様子なのだろうか

神奈川県の産業について白地図にまとめよう

地図帳

副読本「私たちの神奈川県」

神奈川県の白地図

- ・ 農業や工業、観光業が盛んな場所に色を塗ってみよう。
- ・ 農地は少ないけど、県内の色々な場所で農作物を作っているよ
- ・ 三浦半島では、キャベツ、大根、すいかをたくさん作っているよ

(態-①)

神奈川県の様子について、学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。

○県内の地形や土地利用の特色に気付かせるために、事前に神奈川県の地形を大まかに書き込んだ白地図に、色を塗ったり、調べたことを書き込んだりさせる。

(知-①)

神奈川県全体の地形について、地図帳等の資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、神奈川県の様子を理解している。

○県内の産業の特色に気付かせるために、事前に神奈川県の産業を大まかに書き込んだ白地図に、色を塗ったり、調べたことを書き込んだりさせる。

- ・相模湾を中心に色々な水産物がとれるんだね
- ・三浦半島の三崎漁港は、まぐろの遠洋漁業で有名なんだ。
- ・神奈川県は全国2位の工業出荷額なんだね
- ・川崎や横浜の京浜工業地帯は工業が盛んな場所なんだね
- ・箱根町や鎌倉市や横浜市は観光客がたくさん訪れているね

神奈川県には農業、工業、観光業など様々な産業があり、場所によってとれるものにちがいがあがあるんだね

⑤資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、白地図にまとめ、神奈川県の交通の様子について分かるようにする。

神奈川県の交通は、どのような様子なのだろう

神奈川県の交通について白地図にまとめよう

地図帳 副読本「私たちの神奈川県」 神奈川県の白地図

- ・県内の線路や道路に色を塗ろう
- ・県内のたくさんの人が電車を利用しているね
- ・県内には新幹線や空港へつながっている線路もあるから県外や海外など遠い所につながるんだね
- ・県内にはたくさんの道路が通っているね
- ・高速道路もあるから全国の色々な地域とつながっているね

神奈川県にはたくさんの鉄道や道路など、交通網が広がっていて、交通によって県内だけでなく、県外や外国など様々な場所とつながっているんだね

⑥調べたことを文などにまとめ、他県との位置関係や県内の地域の特徴を、比較・関連付け、総合などして、県の地理的環境の特徴を考え、表現し、神奈川県の地理的環境の概要や47都道府県の名称と位置が分かるようにする。

(単元を振り返る学習問題)

神奈川県は、どのような様子なのだろうか

神奈川県について調べたことを白地図にまとめよう

(知一①)

神奈川県全体の産業について、地図帳等の資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、神奈川県の産業の様子を理解している。

○県内の交通の特色に気付かせるために、事前に神奈川県の交通網などを大まかに書き込んだ白地図に、色を塗ったり、調べたことを書き込んだりさせる。

(知一①)

神奈川県全体の交通について、地図帳等の資料を活用して調べ、必要な情報を集め、読み取り、神奈川県の交通の様子を理解している。

クラスでまとめた白地図（模造紙 1 枚程度）

- ・神奈川県は東京や静岡に囲まれていたね。
- ・神奈川県は東に平野が広がり西は産地が多かったね。
- ・神奈川県について学習したことを誰かに伝えたいな。

クラスでまとめた白地図を使って、お家の人に神奈川県を紹介する文章を書こう

（紹介文の例）

私達の神奈川県は、日本の真ん中辺りに位置していて、東京や静岡に囲まれています。形に例えると犬に似ています。その犬の頭の部分が私の住んでいる川崎市で、県の北東にあります。神奈川県は、東側に平野が広がっていて、電車や道路がたくさんあって、東京にも行きやすかったり、海沿いで工業が盛んだったりするので、人口も多いです。西側は山地ですが、箱根の温泉のような有名な観光地や農地が見られます。このように神奈川県はとてもたくさんの特色がある県です。

（思-②）

他県との位置関係や県内の地域の特色を、比較・関連付け、総合などして、県の地理的環境の特色を考えている。

（知-②）

調べたことを文などにまとめ、神奈川県を地理的環境の概要や47都道府県の名称と位置を理解している。

1. 単元名 「ごみはどこへ」

2. 単元づくりのポイント

(1) 教材化

本単元では、地域の生活環境に配慮しながら廃棄物を安全かつ衛生的に処理していることや、県内外の関係機関が相互に連携して処理したり再利用したりしていることなどを基に、廃棄物を処理する事業について理解するようにします。また、地域の人々の日常生活において、大量で多様な廃棄物が排出されていることや、廃棄物を処理する事業においては、現在に至るまでに衛生的に処理する仕組みがつけられ計画的に改善されてきたこと、その結果、地域の公衆衛生が向上し、人々の生活環境が維持・向上してきたことなどを基に廃棄物を処理する事業について理解するようにします。

本単元は、「ごみ・下水」のどちらかを取り上げます。その際、地域の実態に応じて見学を取り入れたり関係機関が作成した資料などを活用したりして、具体的に調べることができるようにすることが大切です。

(2) 学習過程

本単元では、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、例えば、廃棄物をどのように集め処理しているか、再利用にはどのような方法があるか、どのような関係機関や人々の協力の基に成り立っているかなどの問いを設けて調べたり、その事業と人々の健康や生活環境を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現するようにします。また本単元では、ごみの処理に関わって、ごみの出し方や資源の再利用などに関する法やきまりを取り上げるなど、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上を図るための法やきまりを扱うようにします。そして学習したことを基に、ごみを減らすために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして、人々の生活環境の保全に関心を高めるよう配慮することが大切です。その際、地域におけるごみの減量や資源としての再利用などを取り上げるなどして、自らも廃棄物の適切な処理や再利用に協力しようとする態度を養うようにします。

(3) 学習活動

本単元では、関連する施設や事業所を見学したり、地図や関係機関が作成した資料などで調べたりして県の白地図や図表などにまとめるようにします。ここでは見学・調査して必要な情報を集める技能、関係機関相互の協力関係などを読み取る技能、調べたことを図表などにまとめる技能などを身に付けるようにすることが大切です。

3. 単元目標

廃棄物を処理する事業について、ごみの処理の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、ごみの処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を関連付けて考え、ごみを処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究、解決しようとしたり学習したことを基にごみの減量などについて自分たちが協力できることを考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</p>	<p>①処理の仕組みや再利用、県内外の協力などに着目して、問いを見出し、廃棄物の処理のための事業の様子について表現している。</p> <p>②ごみなどの廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付けて廃棄物の処理のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみの減量など、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。</p>	<p>①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基にごみを減らすために自分たちが協力できることを考えようとしている。</p>

5. 単元の構想と評価（11時間扱い）

単元の構想と予想される児童の反応	備考（○）と具体的評価規準
<p>①②たくさんのごみのゆくえについて問いを見出し、学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て主体的に学習問題を追究し、解決しようとするようにする。</p> <p>家庭や学校のごみ調べをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごい量だった。・たくさん種類があったよ。 <p>家庭のごみ調べ 学校のごみ箱の写真</p> <p>副読本「くらしとごみ」川崎市の1年間のごみの量</p> <p>用務員さんの話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室は紙やほこりが多い。 ・給食室は生ごみ（食べ物）があるよ。 ・やっぱり学校では、たくさんのごみが出ているね。 <p>回収前と後のごみ集積所の写真</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日でこんなにあったごみが無くなっているよ。 ・あんなにあったごみは、どうなるんだろう。 <p>（単元を見通す学習問題） ごみ処理にたずさわる人々は、たくさんのごみをどのように集めて処理しているのだろうか</p> <p>何をどのように調べるのか、学習計画を立てよう</p> <p><調べること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみを収集する様子を調べよう。 ・ごみ処理場の役割と処理の仕方について調べよう。 ・ごみ出しのきまりについて調べよう。 <p><調べ方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみ集積所を見学に行こう。 ・ごみ処理に関わる仕事をしている人から話を聞きたいな。 ・ごみ処理場に行って処理の仕方を見てきたいな。 <p>みんなで学習の計画を立てたよ。これからごみ処理の様子について調べていこう</p>	<p>○事前に家庭学習として、家庭でどのようなごみが出ているか、どのようにごみを廃棄しているのかを調べておく。その際、個人のプライバシーに十分配慮する</p> <p>○ごみ調べのためのワークシートを用意し、各家庭に事前に学習の趣旨を伝え、協力を仰ぐ。</p> <p>○ごみの量だけでなく、種類にも目を向けられるように、粗大ごみ置き場や資源物のごみ置き場も見るようにする。</p> <p>（思一①） 家庭のごみ調べや学校のごみ調べなどから、ごみの処理の仕組みや再利用に着目して、問いを見出している。</p> <p>（態一①） ごみの処理について、学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。</p> <p>○ごみ集積所を見学・調査する際には、各区の生活環境事業所に問い合わせをし、打ち合わせをしてお</p>

③ごみ収集の仕組みについて、見学・調査して、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子が分かるようにする。

ごみ集積所では、どのようにごみを集めているのだろうか

ごみ集積所を調べに行こう

- ・両手にごみ袋をたくさんもって、素早く収集車に投げ入れてたよ。
- ・1回で町の全部のごみを集めるのではなく、何回にも分けてまちのごみを集めているんだね。
- ・集めたごみは、処理センターに行くんだって。

たくさんのごみを集めるために収集員さんたちは色々な工夫をしているんだね。集めたごみは、処理センターでどのように処理されているのかな。調べに行こう。

③④⑤⑥ごみが処理センターでどのように処理されているのか、見学・調査したり資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子が分かるようにする。

ごみ処理場では、集めたごみをどのように処理しているのだろうか

ごみ処理センターを見学する計画を立てよう

施設・設備の視点

- ・どんなところに処理センターはあるのかな。
- ・24時間、施設は動いているのかな。

処理の仕方や工夫の視点

- ・どうやって大量のごみを処理するのか、その様子を見よう。
- ・取り組んでいる工夫があるか聞いてみたいな。

働いている人の様子の観点

- ・全部、機械で処理しているのかな。そこで働く人は何をしているのかな。

ごみ処理センターを見学しよう

- ・ものすごいごみの量だよ。
- ・ごみピットのクレーンは大きいな。

くとよい。また、各区の生活事業所の出前ごみスクールを活用するのもよい。

(知一①)

ごみ収集の仕組みについて、見学・調査して、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している

○市内には浮島・堤・橘(2020年現在 建て替え工事中)・王禅寺と4箇所の処理センターがあり、施設見学も受け入れている。

○ごみ処理場が環境にも留意していることに気づけるように、施設内において、ごみのおいを外に出さない工夫、燃やした熱を再利用していることなどに触れる

○ごみ処理センターの見学で焼却灰の中に残る金属を見せてもらくと、分別とごみの減量化が結びつきやすい。

(知一①)

ごみの処理の仕組みや再利用について、処理センターの見学で必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解し

ごみ処理センターで見学したことをまとめよう

ごみ処理場では、集められたごみを種類ごとにそれぞれに合った方法で処理していた。なるべく再利用して、ごみを減らすようにも工夫していた。また、私たちの生活のことも考えて環境のことも考えながらごみを燃やす工夫をしていた。

⑦平成2年のパンフレットを読み取ったり川崎市の取り組みを調べたりして、市がごみ処理問題を計画的に解決してきている様子について考え、表現するようにする。

「川崎市で1年間に出るごみの量と人口のうっぴりかわり」(副読本「くらしとごみ」)

- ・1990(平成2)年のごみが一番多いけど、平成14年以降減ってきているよ。
- ・でも、人口はずっと増え続けているよ。

どうして人口が増えているのに、ごみの量は減ってきているのだろうか

平成2年に出されたパンフレット(非常事態)

副読本「くらしとごみ」(ごみ処理のあゆみ)

- ・30年前には、処分地が5年先には限界が来ると言われているけど、まだ大丈夫だよ。
- ・非常事態宣言後、たくさん分別をするようになっているよ。
- ・川崎市は非常事態宣言から、家庭あたりのごみの量が減って、政令指定都市で最も少なくなったんだ。
- ・普通ごみの収集の日を減らしていったり、分別を増やしたり、きまりをつくったり、たくさんの方の努力をしたんだ。

川崎市は約30年前に非常事態宣言が出されるほどごみの多さに悩んでいたんだ。そこから一人ひとりが努力や意識をして、今に続いていることで、人口は増えているけれど、ごみの量は減っているんだ。

ている。

(態-①)

見学したことを振り返り、さらに調べることを見出している。

○副読本『くらしとごみ』から、川崎市の人口は増え続けているのに、1人あたりのごみの量が減ってきていることに着目できるようにする。

○川崎市のごみ減量のための取り組みについて考えられるように、川崎は2017年度、政令指定都市の中でごみ排出量(1人1日あたり)が最も少なくなったという事実を取り上げるようにする。

(思-②)

学習したことを基に、現在に至るまでに衛生的に処理する仕組みが作られ、計画的に改善されてきたことについて考え、表現している。

⑧調べたことを図表にまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを分かるようにする。

(単元を振り返る学習問題)

ごみ処理にたずさわる人々は、たくさんのごみをどのように集めて処理しているのだろうか

ごみ処理の様子について関係図にまとめよう

今までの学習で活用してきた資料

ごみ処理にたずさわる人々は、わたしたちが普段の生活で出してしまっているごみの処理をしてくれている。そのごみも、全てを灰にしてしまうのではなく、再利用できる資源は再び使えるようにしてくれている。そうした取り組みや呼びかけによって、最終処分場もより長く使用できるようになった。わたしたちの健康的な生活には、なくてはならない存在なのだ。

⑨⑩⑪いろいろな立場からごみを減らすための呼びかけをしていることについて知り、ごみを減らすために自分たちができることを選択・判断し、学習したことを基にごみを減らすために自分たちが協力できることを考えるようにする。

ごみを減らすためにわたしたちが協力できることは何なのだろうか

- ・今使っているものを大切に使う。
- ・水筒（マイボトル）を使うようにする。
- ・マイバックを持ち歩く。
- ・資源ごみの分別をしっかりと行う。
- ・学校でごみを捨てるときに、しっかり分別する。
- ・リサイクル商品を買う。（再生紙・トイレットペーパー）

ミックスペーパーの出し方に関するアンケート結果
(H26年度ごみの減量化・リサイクルに関する市民アンケート集計結果 p13、14)

○ごみ処理にたずさわる人々の働きについて、私たちの生活に果たしている役割という視点で関係図にまとめるようにする。

(知一②)

衛生的な処理や資源の有効利用ができるように進められていること、それらは生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

○ごみの分別体験をして分別の大変さを実感し、自分たちにできることを考えるきっかけとして環境事業所のごみ出前スクールを活用することも考えられる。

○ごみの減量について自分事として考えることができるように、分別についてのアンケートから市民の取り組みの現状を知るようにする。

○普段の自分たちのごみの捨て方を改善し、ごみを分別しようとする態度が生活にも生かせるように、

プラスチック製容器包装の出し方に関するアンケート結果（H26年度ごみの減量化・リサイクルに関する市民アンケート集計結果 p 15、16）

- ・しっかり分別している人がほとんどだけれど、普通ごみに混ぜて出してしまう人もまだいるんだね。
- ・分別をめんどうくさがって、普通ごみと一緒にまぜてしまうみたいだ。
- ・でも、私たちの未来のためには、しっかり分別して燃やして灰になるごみを減らしていかななくてはならない。

アンケート結果からしっかり分別している人が多いことが分かる。けれども、めんどうくさがって分別をしない人もいるみたいだ。ごみの問題は解決したわけではない。最終処分場は、わたしたちが大人になる頃にいっぱいになっているかもしれない。だからこそ、わたしは〇〇をして、ごみを減らす努力をしよう。

学校のごみ箱を見直すようにする。

(思-②)

学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを選択・判断している。

(態-②)

学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしている。

1. 単元名 「水はどこから」

2. 単元づくりのポイント

(1) 教材化

本単元では、人々が安心して飲料水を使うことができるよう様々な安全確保に努めていること、必要な量をいつでも使えるよう確保に努めていること、関係機関が相互に連携したり県内外の人々と協力したりして安定的に供給できるようい進められていることなど基に、飲料水を供給する事業について理解するようにします。また、地域の人々の日常生活において、大量の飲料水が使用されていること、飲料水を供給する事業においては、現在に至るまでに安全かつ安定的に供給する仕組みが作られ、計画的に改善されてきたことや、その結果、地域の公衆衛生が向上し、健康な生活が維持・向上してきたことなどを基に、飲料水を供給する事業について理解するようにします。

本単元は、「飲料水・電気・ガス」の中から一つを選択して取り上げます。その際、地域の実態に応じて見学を取り入れたり関係機関が作成した資料などを活用したりして、具体的に調べることができるようにすることが大切です。

(2) 学習過程

本単元では、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、例えば、どのような仕組みで作られているか、どのような経路を通して送られて来るか、どのような関係機関や人々の協力の基に成り立っているかなどの学習問題を設けて調べたり、その事業と人々の生活を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現するようにします。

また、本単元では、学習したことを基に、水を大切な資源として捉え、節水などに向けて自分たちが協力できることなどを考えたり選択・判断したりするなど、資源の有効利用に関心を高めるよう配慮することが大切です。

(3) 学習活動

本単元では、関連する施設や事業所を見学したり、地図や関係機関が作成した資料などで調べたりして、県の白地図や図表などにまとめるようにします。ここでは見学・調査して必要な情報を集める技能、関係機関相互の協力関係などを読み取る技能、調べたことを図表などにまとめる技能などを身に付けるようにすることが大切です。

3. 単元目標

飲料水を供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目し、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究解決しようとしたり、学習したことを基に節水などについて自分たちが協力できることを考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、飲料水の供給のための事業の様子を理解している。</p> <p>② 調べたことを白地図や図表などにまとめ、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。</p>	<p>① 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出し、飲料水の供給のための事業の様子について考え表現している。</p> <p>② 飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて飲料水の供給のための事業が果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節水など自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりして表現している。</p>	<p>① 飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>② 学習したことを基に節水について自分たちが協力できることを考えようとしている。</p>

5. 指導計画（12 時間扱い）

単元の構想と予想される児童の反応	備考（○）と具体的評価規準
<p>①②普段の生活の中で水を大量に消費していることに気づき、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して問いを見出し、予想や学習計画を立て、主体的に学習問題を追究し、解決しようとするようにする。</p>	
<p>学校では、どんな時に水道水を利用しているのか考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校では、手洗いやうがいなどで使っているね。 ・1日、5回以上も使っているよ。 	<p>○水を使うということについて、1日の学校生活を振り返るようにする。</p>
<p>1日の生活でどれくらいの量の水を使っているのだろうか</p>	
<p>学校の水道料金表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの量を使っているね。 	<p>○水道料金表の見方を説明し、どの部分を記録してくればよいかを確認する。</p> <p>○次時までには調べてくるように伝える。</p>
<p>家庭で一日に使う水の量を調べよう</p>	
<p>それぞれの家庭での結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想よりすごくたくさんの量を使っていた。 ・洗濯、風呂、料理などに使っていたよ。 	<p>○水の量感をつかめるように、リットルに直して計算したりプールの水の量を伝えたりする。</p>
<p>川崎市の1日の水の使用量（「川崎市の水道」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で使う量が圧倒的だね。 ・こんなにたくさんの水はどこからくるのかな。 	<p>（思－①） 供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出している。</p>
<p>（単元を見通す学習問題） わたしたちはなぜいつでもたくさんの水を使うことができるのだろうか</p>	
<p>予想をもとに、学習計画を立てよう</p>	
<p><予想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・川から水をとっているんだよ。 ・ごみ処理と同じように、施設があるんだよ。 ・いつでもたくさんの水を使う工夫があるはずだよ。 	
<p><調べることと調べ方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水はどこから来るのか、資料や地図帳を使って調べよう。 ・水道水を作る施設を見学したいな。 ・水道水を作る仕事に関わる人に話を聞きたいな。 	<p>（熊－①） 飲料水について、学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。</p>

たくさんの水は、どこからどうやって来るのかな。いつでも使えるようにいろんな人が働いているのではないかな。たくさんの水が使えるひみつを学習計画にそって調べていこう。

③資料から必要な情報を適切に読み取り、川崎市の水道水が、どのような経路をたどって川崎市にくるのかについて分かるようにする。

水道水はどこからくるのだろうか

- ・多摩川から水をとっているのかな。
- ・地図帳や資料を使って水の旅をたどってみようよ。

副読本「川崎市の水道」（川崎市の水源と水道施設）

地図帳

- ・多摩川ではなく、県西の相模湖や津久井湖から川崎市に来ているんだね。

山からダム、浄水場や配水池などを通して水が送られてくることわかったよ。どうしてわざわざ遠くのダムから水を流しているのかな。ダムにはどんなはたらきがあるのかな。

④県西部の山地に作られているダムから取水されていることから、ダムや水源林の働きを考え、水を貯めておける利点や様々な人が水源を守る活動をしていることを分かるようにする。

ダムにはどのようなはたらきがあるのだろうか

ダム周辺の写真と多摩川周辺の写真

宮ヶ瀬ダムの貯水量

副読本「川崎市の水道」（ダムのはたらき）

- ・ダムの周辺は山に囲まれている。
- ・ダムはたくさんの水が貯めておけるんだね。
- ・ダムには洪水を守る役割もあるんだ。

副読本「川崎市の水道」（水のしみこみ方のちがい）

ダムの係の人の話 ボランティアの高橋さんの話

県の係の人の話

- ・森林は水をためておく力があるんだね。

○「県の概要」で学習した、地形や土地利用を振り返りながら進めていく。

○白地図を配り、経路や主な経由地をまとめさせてもよい。

(知一①)

資料をもとに情報を集め、読み取り、川崎市の水道水は県西部のダムにためられた水から取水されていることを理解している。

○「県の概要」で学習した、地形や土地利用を振り返りながら進めていく。

○資料が多いので、グループごとに調べ、調べたことを学級でまとめてもよい。

(知一①)

ダムや水源林、水源を守る人々のおかげで安定的に供給できる

- ・他県とも協力して、水源をきれいに保っているんだ。
- ・いろいろな人が水源林を守る努力をしているんだね。

遠くの湖(ダム)から水を引くのは、ダムはたくさんの水をためたり、調整したりすることができるからなんだね。その水源を守るために働いている人がいたり他県と協力したりしているんだね。ダムから出た水は浄水場に行く。浄水場ではどうやって水をきれいにしてるのかな。

⑤⑥⑦水源地から送られてきた水がどのようにきれいにされて私たちのもとに届いているのか、見学を通して調査し、分かるようにする。

浄水場では、どうやって水をきれいにして私たちのもとへとどけているのだろうか

浄水場を見学する計画を立てよう

施設・設備の視点

- ・浄水場はどんな役割があるのかな。
- ・24時間、設備は動いているのかな。

水をきれいにする仕組みや工夫の視点

- ・どうやってきれいにしているのかな。
- ・きれいにするためにどんな工夫をしているんだろう。

働いている人の様子の視点

- ・毎日どんな仕事をしているのか知りたいな。 など

浄水場を見学しよう

- ・とても広い所だな。
- ・大きな池がたくさんあるよ。

浄水場で見学したことをまとめよう

- ・沈殿池やフロック形成地で汚れを固まりにしているんだね。
- ・薬をいれることで安全な水道水になるんだね。
- ・水をきれいにするための様々な設備があったね。
- ・安全な水を届けるために検査や点検をしている人がいたね。

浄水場ではダムから流れてきた水に薬を入れたりろ過をしたりして水を飲める状態にしている。安全な水がいつでも使えるように、24時間機械や薬を管理している。浄水場を出た水は、配水管や給水管を通して私たちのもとへ届いている。

ようになっていることを理解している。

○水を飲める状態にしているのは、浄水場であることを知らせる。

○学習問題に即した視点をもてるようにする。見学で見てきたことを記録できるようにする。

○見学ができない場合は「川崎市の水道」や上下水道局の出前授業を活用するのも良い。

(知-①)

安心して、飲める水をつくるための浄水場の施設や、そこで働く人の工夫や努力、私たちのもとへ届く流れを調べ、事業の様子を理解している。

(思-①)

見学でわかったことをまとめることを通して、飲料水の供給のための事業の様子について考え表現している。

⑧水道局がダムや浄水場を整備してきたことを調べ、その結果、安全な水を使って健康に生活をできていることを分かるようにする。

水道ができるまで（「川崎市の水道」）

- ・わき水や井戸水をつかっていたんだね。
- ・にごっていて飲み水として使えないものもあったんだ。
- ・でんせん病かん者が増えていってしまったんだね。

きれいな水がとどけられるようになるまでに、どのような取り組みが行われたのだろうか

水道が引かれるようす 年表（「川崎市の水道」）

- ・順番に浄水場をつくっていったんだね。
- ・5年後、10年後を考えて仕事を進めたんだ。

水道局の人たちは、計画的にダムや浄水場を整備していったんだ。そのおかげで、私たちは安全な水を使って健康に生活できているんだね。

⑨神奈川県民の飲料水確保のために、宮ヶ瀬ダムができた背景と人々の生活を関連付けて事業が果たす役割を考えるようにする。

清川村宮ヶ瀬の写真
ダムをつくるためにしずんだ家の数（「川崎市の水道」）

- ・昔は村があったんだね。
- ・たくさんの人がよその土地に引っ越したんだ。

なぜ、宮ヶ瀬ダムを作ったのだろうか

- ・住んでいた土地をはなれるのは、簡単なことではないよね。
- ・多くの人々に水を届けるために仕方がなかったのかな。

新しい水源 湖にしずんだ村の人の話（「川崎市の水道」）

- ・住んでいた人々の思いの上にダムができたんだね。
- ・宮ヶ瀬湖のおかげで、水不足の心配がなくなったんだね。

村の人々が大変な思いをして土地をはなれたから、自分たちは今、不自由なく水を使うことができるんだね。

（知－①）

飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。

○村の人々の視点になって、考えられるようにする。

（思－②）

神奈川県民の飲料水確保のために、宮ヶ瀬ダムができた背景と人々の生活を関連付けて事業が果たす役割を考えている。

⑩⑪調べたことを関係図にまとめ、飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて飲料水の供給のための事業が果たす役割について考え、水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを分かるようにする。

(単元を振り返る学習問題)

わたしたちはなぜいつでもたくさんの水を使うことができるのだろうか

ごみ処理の様子について関係図にまとめよう

ノートの記述 教室掲示

水源を守る人々の立場

- ・ダムや森林はたくさんの水をためたり、調整したりすることができたね。
- ・一生懸命水源を守る人たちがいるから水を使うことができる。

浄水場で働く人々の立場

- ・浄水場では、水をきれいにするために、働く人の工夫や努力、設備がたくさんあったね。
- ・浄水場で働く人たちが24時間体制で管理してくれているから、水を使うことができる。

水道局の人々の立場

- ・水道局の人たちは、計画的にダムや浄水場を整備していたね。
- ・未来のことを考えて計画的に整備してくれたから、安全な水をいつでも使うことができる。

清川村宮ヶ瀬の人々の立場

- ・ダム建設のために土地をはなれた人たちがいたから、自分たちは今、不自由なく水を使うことができるんだね。

水道局の人々は、私たちに安全で安定的に飲料水を届けるために、ダムや浄水場等の施設を計画的に整備したり、様々な人々の協力を得たりしながら事業を進めている。だから、わたしたちが安全なきれいな水をいつでも不自由なく使い、健康に過ごすことができる。

○これまで学習してきたことを振り返り、まとめていく。

○どの立場に立っているのかを確認しながら板書にまとめる。

○関係図だけでなく、「山→ダム→浄水場→配水管、給水管→私たちのもと」といった水の流れを白地図上に書き込み、それらのはたらきを文章でも表していくようなまとめ方もよい。

(思-②)

飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて飲料水の供給のための事業が果たす役割を考え、適切に表現している。

(知-②)

調べたことを関係図などにまとめ、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。

○土地をはなれた人々、計画的に

⑫学習したことを基に、節水など自分ができることを選択・判断して表現し、自分たちやみんなができることや協力できることを考えるようにする。

副読本「川崎市の水道」 (水を大切に)
(家庭のみなさんへ)

- ・水は限りある資源なんだね。
- ・水を大切に使用していくための取り組みがあるんだね。

水を大切にしていくために、私たちにはどんなことができるのだろうか

- ・食べ物にも水が使われているから、残さないようにしよう。
- ・こまめに水を止めていく。
- ・一人一人が意識していくことが大切だね。

いつでも不自由なく安全な水が使えるのは、ダムのために土地をはなれた人々や水源を守る人々など、たくさんの人が協力してくれているからだとわかった。だから自分もその人たちの思いや努力を無駄にしないように、出しっぱなしや食べ残しなどをなくして、節水していきたい。

推進してきた水道局の人々、水源を守る人々などの思いを確認し、自分たちがどうして行くべきかを考えられるようにする。

(思-②)

節水について協力できることを選択・判断して表現している。

(態-②)

学習したことを基に、節水について協力できることを考えようとしている。

1. 単元名 「自然災害にそなえる人々（地震）」 選択

2. 単元づくりのポイント

(1) 教材化

この単元では、県内で過去に自然災害が発生していること、発生した際には県や市、警察署や消防署、消防団などの関係機関が地域の人々に協力して、自然災害から人々の安全を守るために対処してきたことなどを基に、自然災害から人々を守る活動について理解できるようにします。また、県庁や市役所、警察署や消防署、消防団などの関係機関と地域の人々は、過去の自然災害の発生状況などを踏まえ、気象情報を収集したり災害も前兆現象を察知したりして、起こり得る自然災害による被害を防いだり減らしたりするための備えをしていることなどを基に、自然災害から人々を守る活動について理解できるようにします。

また、本単元は、「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害」の中から選択して取り上げることが考えられます。なお、実際に自然災害によって被災した地域や被災が想定される地域を取り上げる際には、そこに居住していた人々も今も居住している人々がいることを念頭に、個人の置かれている状況やプライバシーなどに十分配慮する必要があります。

(2) 学習過程

本単元では、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、例えば、県内で過去にどのような自然災害が発生しどのような被害をもたらしたか、被害を減らすために関係機関や人々はどのように協力しているかなどの問いを設けて調べたり、それらの活動と人々の生活を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現するようにします。

また、本単元は、県内で様々な自然災害が度々起きていることや、自然災害は気象や地象の状況と深い関係があることなどを踏まえて、日ごろから気象庁などからの情報や防災情報、地域の地理的環境などに関心をもち、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちにできる自然災害への備えを選択・判断したりすることができるように指導することが大切です。

(3) 学習活動

本単元では、県庁や市役所、地域の防災組織などの関係者から聞き取り調査をしたり、地図や年表、関係者が作成した資料などで調べたりして、年表などにまとめるようにします。ここでは、聞き取り調査で必要な情報を集める技能、地図や年表などの資料から情報を読み取る技能、時間の経過に沿って年表などに整理したり関係機関相互の協力関係を図表などにまとめたりする技能などを身に付けるようにすることが大切です。

3. 単元目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究解決しようとしたり、学習したことを基に自分たちにできる自然災害への備えを考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ② 調べたことを年表や図、表、文などにまとめ、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される被害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え表現している。 ② 自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、県内の人々の命や財産を守るなど、災害から人々を守る活動の働きを考えたり、学習したことを基に、日頃から必要な備えをするなど、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	① 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基に自然災害の備えについて自分たちが協力できることを考えようとしている。

5. 指導計画（9時間扱い）

単元の構想と予想される児童の反応	備考（〇）と具体的評価規準
<p>①②過去に発生した地域の自然災害に着目して、問いを見出し、自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て主体的に学習問題を追究し、解決しようとするようにする。</p> <p>鬼怒川災害の氾濫の様子 西日本豪雨による土砂災害の様子</p> <p>箱根の噴火の様子 東日本大震災の被害の様子</p> <p>・テレビで見たことあるよ。地震や大雨、洪水のことを自然災害と言うんだね。</p> <p>神奈川県内の自然災害の被害状況を表す地図（東日本大震災等）</p> <p>・神奈川県でも、たくさんの自然災害の被害が起きているね。</p> <p>過去に神奈川県内に起こった主な地震の年表</p> <p>ミュージアム川崎の震災後の様子、帰宅困難者の様子</p> <p>東日本大震災の様子についての家での聞き取り調査</p> <p>・川崎市でも大きな揺れが起きたんだ。 ・電気や電車が止まって、家に帰れない人がいたんだ。 ・地震が終わった後も計画停電が行われたんだ。</p> <p>（単元を見通す学習問題） 川崎市では、大きな地震が起こった時に、だれがどのような対応をしているのだろうか</p> <p>・警察の人が、信号の変わりに交通整理をしたと思う。 ・家へ帰れない人のためにひなん場所を用意したんじゃないかな。</p> <p>予想をもとに、学習計画を立てよう</p> <p><調べること></p> <p>・東日本大震災起こった時の川崎市の取り組みを調べよう。 ・地域の人々や色々な人々の協力について調べよう。 ・地震から守るための施設はあるかな。 ・地域に暮らす人の備えについて知りたいな。</p> <p><調べる方法></p> <p>・地震の被害に対応している人から話を聞きたいな。 ・地域の人からも話を聞きたいな。 ・資料を集めて調べたいな。</p>	<p>〇自然災害へと考えを広げられるように「噴火」や「台風」「洪水」「土砂崩れ」などの用語を掲示し、まとめて自然災害ということ伝える。</p> <p>〇当時の様子が具体的に伝わるように事前に保護者の方に当時の様子について聞いてくることも考えられる。</p> <p>〇子どもの親戚等、震災によって身内の不幸があったか確認する必要があり、クラスの実態に配慮する必要がある。</p> <p>（思-①） 様々な関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動について問いを見出している。</p> <p>（態-①） 自然災害から人々を守る活動について予想や学習計画を立て主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p>

地震に対してどんな取り組みをしているのか、学習計画に沿って調べていこう

③東日本大震災が起こった時の対処の方法について活動記録から読み取ったことを表にまとめ、関係機関の相互の協力関係について分かるようにする。

・川崎市ではどのように対応したのかな。

東日本大震災が起こった時に、川崎市ではだれがどのような対応をしたのだろうか

震災時、関係機関の対応

- ・警察の人が、信号の変わりに交通整理をしたと思う。
- ・家へ帰れない人のためにひなん場所を用意した。
- ・いざという時は、県は自衛隊を要請するつもりだったんだね。

地震発生当日の主な活動記録

- ・発生のと、すぐに災害対策本部が設置されている。
- ・津波の危険を知らせるために放送している。

災害対策本部の組織図

- ・市長を中心に消防署やまちづくり局などたくさんの人たちが参加している。
- ・災害対策本部を開くことで、早く連絡を取り合うことができる。

東日本大震災が起こった時、川崎市でもすぐに災害対策本部が設置され、メールや放送で危険を知らせたり、さらに被害が大きくならないように消防や警察など関係機関と協力したりして対応したんだ。

④市は、危機管理室を中心に、それぞれの連携・協力により地震情報の提供、今後の緊急時の連絡体制を整えて災害に対応していることを分かるようにする。

東日本大震災当時の危機管理室の方の話

- ・たくさんの課題が見つかったって書いてある。

副読本「かわさき」災害情報を共有して協力する仕組み

現在の川崎市では、大きな地震が起きた時には、どのような仕組みになっているのだろうか

- ・市長を中心に消防署やまちづくり局などたくさんの人たちが参加

○災害対策本部の組織図について読み取ることが難しい児童には、簡単につながりを示した図の資料を提示する。

(知一①)

活動記録や災害対策本部の組織図などの資料を調べ、集めた情報を図表にまとめて関係機関の相互の協力関係について理解している。

○仕組みにとって重要な矢印に気がつかない場合は、矢印の意味についても促したい。

している。

- ・災害対策本部を開くことで、早く連絡を取り合うことができる。
- ・危機管理室が中心になって震災が起きた時には対応している。
- ・消防署と警察署も連携しているんだね。

危機管理室には、川崎市内から災害について情報をすばやく、たくさん集め、みんなで協力して災害に対応しているんだね。

⑤川崎市が今後想定される災害に対して様々な備えをしていることを分かるようにする。

30年以内に大きな地震が起こる確率

〇〇区で想定される被害

- ・〇〇区だけでも大きな被害が出ている。
- ・2000人以上の人がけがをしてしまう。

もし今後大きな地震が起きた時に、川崎市ではどんな備えをしているのだろうか

ハザードマップ

- ・避難所や給水ポイントを伝えているんだ。
- ・これを見れば避難所や給水ポイントに行くことができる。

津波の案内板の設置

- ・避難する経路や場所が示してあるんだ。

川崎市は、大きな地震が起きた時を考えて、十分な備えを行っているんだね。

⑥学校、地域で行っている地震への備えについて東日本大震災の際の課題に対応をしていることや市民の安心や安全を考えて備えをしていることを分かるようにする。

もし今後大きな地震が起きた時に、地域ではどんな備えをしているのだろうか

学校の備蓄倉庫や給水ポイントを見学しよう

- ・たくさんの水や食料が確保されている。
- ・避難所に来れば食料や水を確保することができる。

地域の総合防災訓練の様子

- ・学校だけでなく地域でも避難訓練をしているんだ。
- ・区や地区ごとに防災訓練が行われている。

(知一①)

市は、危機管理室を中心に、それぞれの連携・協力により地震情報の提供、今後の緊急時の連絡体制を整えて災害に対応していることを理解している。

(知一①)

川崎市が今後想定される災害に対して様々な備えをしていることを理解している。

○たくさんの食料や水が備蓄されていることを実感できるように実際に備蓄倉庫と給水ポイントを見学する活動が考えられる。

○自分たちができることへの意識を高め、学校等の備えが足りていない事実から家庭での取り組みに意識を向けるようにする。

(知一①)

学校、地域で行っている地震

川崎市では、いつ起きるか分からない地震に対して、東日本大震災での課題を生かして、市民の避難場所や食料を確保したり、安全な行動がとれるように避難訓練をしたりしているんだ。

⑦⑧調べたことを図や表などにまとめ、大きな地震が発生した際の被害状況と関係機関の対応を関連付けて、災害から人々を守る活動の働きを考え、地域の関係機関や人々は地震に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される被害に対し、様々な備えをしていることを分かるようにする。

(単元を振り返る学習問題)

川崎市では、大きな地震が起こった時に、だれがどのような対応をしているのだろうか

地震にそなえた取り組みについて表にまとめよう

ノートの記述 教室掲示

市役所の人の立場

- ・地域防災計画を立てたり、ハザードマップを作ったりしている。
- ・いざという時には、県や消防などの関係機関に協力を求めている

地域の人々の立場

- ・防災訓練に参加しているよ
- ・防災倉庫の点検や補充をしていたよ
- ・災害時に必要な量の食料や水を準備しているよ

それぞれの立場で、地震に備える取り組みをしているよ。また、地震に備えるためにそれぞれの立場の人が協力しているんだね。

⑨学習したことを基に、災害が起きた時に自分たちが協力できることを選択・判断し、自分たちやみんなができることや協力できることを考えるようにする。

大きな地震に備えて、自分たちやみんなができることは何だろうか

「備える。かわさき」

- ・日ごろから近所の人と声を掛け合うことが大切だね。

への備えについて東日本大震災の際の課題に対応をしていることや市民の安心や安全を考えて備えをしていることを理解している。

(思一②)

学習してきたことを基に、大きな地震が起こった際の被害状況と関係機関の対応を関連付け、市民の命や財産を守る活動の働きを考え、表現している。

(知一②)

調べたことを図や表などにまとめ、地域の関係機関や人々は地震に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される被害に対し、様々な備えをしていることを理解している。

○それぞれが様々な備えをしていることが分かるように、前時の学習で調べたことと家庭での備えを結びつけて考えられるようにする。

(思二②)

学習したことを基に災害が

- ・避難所を知っておくとすぐに避難できる。

危機管理室の方の話

- ・正しく災害をおそれてほしいってことは災害のこわさを知ってることが大切だ。
- ・関係機関に頼るだけでなく、近所との協力や助け合いが、とても大切なんだ。ふだんから、仲よくする必要があるね。

少しでも被害を減らすためには、関係機関が協力して対応している。また、自分をしっかりと守れるような行動をとることが大切だ。

起きた時に、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりしている。

(態一②)

地域社会の一員として自分の安全や家族、地域の安全を守るための行動について考えようとしている。

1. 単元名 「自然災害にそなえるまちづくり（水害）」 選択

2. 単元づくりのポイント

(1) 教材化

この単元では、県内で過去に自然災害が発生していること、発生した際には県や市、警察署や消防署、消防団などの関係機関が地域の人々に協力して、自然災害から人々の安全を守るために対処してきたことなどを基に、自然災害から人々を守る活動について理解できるようにします。また、県庁や市役所、警察署や消防署、消防団などの関係機関と地域の人々は、過去の自然災害の発生状況などを踏まえ、気象情報を収集したり災害も前兆現象を察知したりして、起こり得る自然災害による被害を防いだり減らしたりするための備えをしていることなどを基に、自然災害から人々を守る活動について理解するようにします。

また、本単元は、「地震災害、津波災害、風水害、火山災害、雪害」の中から選択して取り上げることが考えられます。なお、実際に自然災害によって被災した地域や被災が想定される地域を取り上げる際には、そこに居住していた人々も今も居住している人々がいることを念頭に、個人の置かれている状況やプライバシーなどに十分配慮する必要があります。

(2) 学習過程

本単元では、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、例えば、県内で過去にどのような自然災害が発生しどのような被害をもたらしたか、被害を減らすために関係機関や人々はどのように協力しているかなどの問いを設けて調べたり、それらの活動と人々の生活を関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現するようにします。

また、本単元は、県内で様々な自然災害が度々起きていることや、自然災害は気象や地象の状況と深い関係があることなどを踏まえて、日ごろから気象庁などからの情報や防災情報、地域の地理的環境などに関心をもち、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちにできる自然災害への備えを選択・判断したりすることができるように指導することが大切です。

(3) 学習活動

本単元では、県庁や市役所、地域の防災組織などの関係者から聞き取り調査をしたり、地図や年表、関係者が作成した資料などで調べたりして、年表などにまとめるようにします。ここでは、聞き取り調査で必要な情報を集める技能、地図や年表などの資料から情報を読み取る技能、時間の経過に沿って年表などに整理したり関係機関相互の協力関係を図表などにまとめたりする技能などを身に付けるようにすることが大切です。

3. 単元目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究解決しようとしたり、学習したことを基に自分たにできる自然災害への備えを考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ② 調べたことを年表や図、表、文などにまとめ、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される被害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	① 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え、表現している。 ② 自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて、県内の人々の命や財産を守るなど、災害から人々を守る活動の働きを考えたり、学習したことを基に、日頃から必要な備えをするなど、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	① 自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習したことを基に自然災害の備えについて自分たちができることを考えようとしている。

5. 指導計画（8時間扱い）

単元の構想と予想される児童の反応	備考（〇）と具体的評価規準
<p>①②過去に発生した地域の自然災害に着目して、問いを見出し、自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て主体的に学習問題を追究し、解決しようとするようにする。</p> <p>鬼怒川災害の氾濫の様子 西日本豪雨による土砂災害の様子</p> <p>箱根の噴火の様子 東日本大震災の被害の様子</p> <p>・テレビで見たことあるよ。地震や大雨、洪水のことを自然災害と言うんだね。</p> <p>神奈川県内の自然災害の被害状況を表す地図（東日本大震災等）</p> <p>・神奈川県でも、たくさんの自然災害の被害が起きているね。</p> <p>過去の多摩川水害の年表 1974年の多摩川水害の様子</p> <p>・私たちの地域でも昔から水害の被害を受けていたんだね。 ・私たちの地域はが洪水や土砂災害の危険があるなんて知らなかったよ。 ・自然災害に対してどのように備えればいいのか。</p> <p>（単元を見通す学習問題） 多摩川の風水害の被害を減らすために、どのような取り組みをしているのだろうか</p> <p>・警察の時の学習と同じで、いろいろな人が協力したり助け合ったりして乗り越えたんじゃないかな。</p> <p>予想をもとに、学習計画を立てよう</p> <p><調べること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川水害の過去の取り組みを調べよう。 ・地域の人々や色々な人々の協力について調べよう。 ・水害から地域を守るための取り組みはあるかな。 <p><調べる方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水害を守ることに関係する人から話を聞きたいな。 ・地域の人からも話を聞きたいな。 ・資料を集めて調べたいな。 <p>水害に対してどんな取り組みをしているのか、学習計画に沿って調べていこう。</p>	<p>〇自然災害へと考えを広げられるように「洪水」や「台風」「土砂崩れ」「噴火」などの用語を掲示し、まとめて自然災害ということ伝える。</p> <p>〇子どもの親戚等、自然災害によって身内の不幸があったかを確認する必要があり、クラスの実態に配慮する必要がある。</p> <p>〇昭和の時代に多摩川が氾濫した様子がわかるように年表を使って掲示する。</p> <p>〇1974年の多摩川水害に注目できるようにする。</p> <p>（思－①） 様々な関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動について問いを見出している。</p> <p>〇水やごみ、警察の働きなど、これまでの学習を思い出しながら計画を立てる。</p> <p>（態－①） 自然災害から人々を守る活動について学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっている。</p>

③多摩川の水害における対処の仕方について資料から読み取り、関係図や表にまとめ、活動の様子や関係機関の相互の協力関係について分かるようにする。

1974年の多摩川の水害では、誰がどのように対応したのだろう

自衛隊や消防、警察の活動の様子

- ・川幅を広げるために、爆発させているのは自衛隊だ。
- ・たくさんの人たちが多摩川を見に来ている。危ないからそこから離れるように声を掛けるのは警察だ。
- ・家の中で助けを求めている人の救助をしたのは、消防士。

京浜河川課の人の話

- ・自衛隊、警察、消防などみんなが協力して活動していた。

1974年の多摩川の水害では、自衛隊や消防、警察など関係機関が協力しながら対応していたんだ。また川崎市の職員の人たちは被害状況の確認などをしていたんだね。

④多摩川の風水害が起きないように様々な関係機関が協力して対策をしていることが分かるようにする。

昭和と平成の多摩川風水害の年表

- ・平成は1回も氾濫していない。
- ・昭和は氾濫してばかりだったのに、平成になると氾濫することがなくなった。

川崎市では、多摩川で水害が起きないように、これまでにどのような取り組みをしてきたのだろうか

- ・氾濫しないように工事をした。
 - ・氾濫に負けない強い堤防を作った。
- 現在の多摩川の様子 一般的な堤防
- ・どちらもコンクリートで堤防が作られている。
 - ・多摩川の方は川からだいぶ離れたところの上の方に住宅がある。

京浜河川課の人の話

- ・スーパー堤防ってすごい。
- ・ただ堤防を作っただけではなく、氾濫が起きないように国や県、市の人たちと話し合ったり対策を考えたりして作られた。
- ・みんなで協力しながら、考えていたんだ。

水害が起きないようにスーパー堤防を作ることに取り組んだ。国や県、市の人たちが話し合いを重ねながら計画を立てた。こ

○関係機関の相互の協力関係がわかるように資料を掲示する。

(知一①)

資料から読み取り、関係図や表にまとめ活動の様子や関係機関の相互の協力関係を理解している。

○市内で被害を受けた多摩川の水害について、昭和と平成を比べられるように、年表にして掲示する。

○警戒水位とは氾濫はしていないが危険が迫っていることだということを確認する。

○多摩川の堤防と一般的な堤防を比べられるように掲示する。

○過去のことを踏まえて、計画が行われたことがわかるようにする。

(知一①)

過去の風水害の発生状況などを踏まえ、それぞれの関係機関が協力しながら被害を防いだり減らしたりしてい

れで多摩川も氾濫する危険が少なくなって安全だね。

⑤ 川崎市では、多摩川の風水害への備えについて、過去に起こった被害が起きないように対応していることや、市民の安全を考えて備えをしていることを分かるようにする。

鬼怒川の氾濫の様子

・多摩川は本当に大丈夫なの。

川崎市では、多摩川の水害に対して、現在どのような備えをしているのだろうか

水防訓練の様子

- ・消防士が多摩川で取り残されている人を助けるための訓練をしている。
- ・土のう袋に土をつめている。
- ・消防団の人や市役所の人など色々な人が参加しているね

土のうステーション

- ・必要な時に自由に持ち出せるようにしている。
- ・2021年度までに、土のうステーションを15ヵ所増やす予定なんだね。

自校の貯留施設

危機管理担当の人の話

平成16年高津区洪水ハザードマップ

- ・降った雨が多摩川に流れることも氾濫の原因となるんだ。
- ・洪水ハザードマップは、多摩川が氾濫した時の被害の広がりを表したものだ。
- ・多摩川の風水害が起きた時に市民の人たちの安全を守るために市の職員の人たちは備えていたんだ。

川崎市では多摩川の風水害に対して、水防訓練では、消防士や消防団、市の職員たちと協力して訓練を行っている。また、土のうステーションや貯留施設などを作って備えている。多摩川が氾濫してしまった時の被害を知らせる洪水ハザードマップの作成もしている。この備えは、過去の風水害をもとに備えられている。市民の安全を守るために様々な備えをしているので、私たちは安全に生活することができる。

ることを理解している。

○前時で備えをしていることを学習したが、多摩川が氾濫した時、本当に自分たちの地域は安全なのか問い返すようにする。

○市役所の人や消防署の人などから話を聞くなどの調査活動をおこなっても良い

○土のうステーションや貯留施設の意味について確認する。

○こんなに多くの備えをしているのは、過去の多摩川の風水害のことをもとにして考えられていることを確認する。

○市民の人たちに危険性を知らせるために、洪水ハザードマップが作成、配付されていることを分かるようにする。

(知-①)

川崎市では多摩川の風水害への備えについて市の職員や地域の人たちと協力していることや今後想定される被害に対し、様々な備えをしていることを理解している。

⑥自然災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え適切に表現し、自分たちが協力できることを考え、表現するようにする。

平成30年高津区洪水ハザードマップ

- ・平成16年よりも浸水被害がかなり広がっている。
- ・これまでの学習で多摩川の風水害への対策がたくさんされてきたはずなのに。安全ではなかったのかな。

川崎市はこんなに備えていたのに、なぜ平成30年に洪水ハザードマップの浸水被害が広がったのだろうか

- ・危険だという意識をもってもらうため。
- ・過去の災害を参考にして作られたため。

平成16年、30年の洪水ハザードマップ

- ・より危機意識をもてるのは、平成30年のハザードマップだ。だって未長は浸水被害が予想されているから。

近年の気象状況

- ・近年雨が降る量が増えている。
- ・最近雨による災害が増えている。

危機管理担当の人の話

- ・危険性を知ってもらうため、正しく避難ができるように市民の人に伝えている。
- ・洪水ハザードマップが家でみたことがない。
- ・私たちは風水害に対して備えができていない。

平成30年の洪水ハザードマップの浸水被害が広がったのは、鬼怒川の氾濫がきっかけであった。川崎市は、市民の安全を守るために危険性や正しく避難ができるように伝えている。私たちの知らないところで取り組み続けている。川崎市ってすごい。でも、自分たちはこのままでいいのかな。

⑦災害から人々を守る活動の働きについて関係図にまとめ、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される被害に対し、様々な備えをしていることを分かるようにする。

(単元を振り返る学習問題)

多摩川の水害の被害を減らすために、どのような取り組みをしているのだろう

○川崎市は市民の安全を守るために、備え続けていることに気づけるようにする。

○自分たちの危機意識の低さを実感するために、家族と危険性や正しい避難場所について話し合ったことがあるか確認する。

○漠然としたものではなく、10歳の自分たちにできることは、何かということ意識して考えられるようにする。

(思-②)

学習したことを基に多摩川の風水害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付け、市民の人々の命や財産を守る活動の働きを考え表現している。

○これまで学習してきたことを振り返り、まとめていく。

水害から守る取り組みについて関係図にまとめよう

ノートの記述 教室掲示

市役所の人の立場

- ・地域防災計画を立てたり、ハザードマップを作ったりしている。
- ・避難訓練を行っているよ。

県や国の係の人の立場

- ・県の人が川幅を広げる工事をしていたね。
- ・いざという時には県の人が、国に自衛隊の派遣を要請するよ。

消防団の人の立場

- ・土のう積みの訓練や、倉庫の点検をしていたよ。

水害に備えて、市と県、国が協力したり、地域の人々の日ごろから水害が起こったことを考えたりするなど、様々な取り組みをしているんだね。

⑧学習したことを基に、災害が起きた時に自分たちが協力できることを選択・判断し、自分たちやみんなができることや協力できることを考えるようにする。

多摩川の水害に備えて、自分たちやみんなができることは何だろうか

- ・うちは洪水ハザードマップを備えていなかった。洪水ハザードマップが必要だということを家族に知らせたい。
- ・市民のためにいろいろな備えを行っていたから、そういう人たちに協力できるようにしていきたい。
- ・自分たちにできることを少しずつ行っていきたい。こんなに備えている川崎はすごいと思った。

危機管理担当の人の話

風水害の被害を減らすために周りの人たちが様々な対策や備えをして私たちの生活を守ってくれていることがわかった。周りの人たちと協力したり学習したことを家族に知らせたりするなど自分にできることをしていきたいと思った。

○どの立場に立っているのかを確認しながら板書にまとめる。

(知-②)

災害から人々を守る活動の働きについて関係図にまとめ、地域の関係機関や人々は自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される被害に対し、様々な備えをしていることを理解している。

○自分たちの家では、風水害への備えをしているか、家庭での聞き取り調査をするようにする。

(思-②)

学習したことを基に災害に備えて、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりしている。

(態-②)

学習したことを基に災害が起きた時に、自分たちが協力できることを考えようとしている。

1. 単元名 「地域で受け継がれてきたもの」

2. 単元のポイント

(1) 教材化について

本単元では、自分たちの住む県内の様々な場所で文化財や年中行事が受け継がれていること、それらは地域の歴史を伝えるものであることなどを基に、県内の伝統や文化について理解するようにします。また、文化財や年中行事にはそれらの保存や継承に取り組んでいる地域の人々の努力が見られることや、地域の生産活動やまちの発展、人々のまとまりなどへの願いが込められていることを基に、県内の伝統や文化について理解するようにします。

県内の主な文化財や年中行事として、例えば、県内を代表する歴史を伝える建造物や遺跡、民俗芸能などの文化財、地域の人々が楽しみにしている祭りなどの年中行事などが考えられます。文化財については、文化財保護法でいう文化財はもとより、日本遺産や世界遺産といった地域の歴史的な特色やその魅力を知るための地域の遺産の中にみられる文化財なども考えられます。なお、ここで取り上げる文化財や年中行事については、伝統的な文化を保護・活用してまちづくりなどを行っている地域の様子を学ぶ「県内の特色ある地域の様子」の学習との違いに配慮する必要があります。

(2) 学習過程について

本単元では、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、例えば、いつ頃、どのような理由で始まったか、どのような経過で現在に至っているか、人々は保存や継承のためにどのような取組をしているかなどの問いを設けて調べたり、それらを人々の願いや努力と関連付けて考えたりして、調べたことや考えたことを表現するようにします。

ここでは学習したことを基に地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして地域に対する誇りや持続可能な社会を担おうとする態度を養うよう配慮することが大切です。

(3) 学習活動について

本単元では、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめるようにします。県内の伝統や文化については、博物館や資料館などを見学したり、昔と現在の市の地図や写真などの資料で調べたりして、年表などにまとめます。ここでは、博物館や資料館などを見学して必要な情報を集める技能、地図や写真などの資料を結び付けながら情報を読み取る技能、調べたことを時間の経過に沿って年表などに整理する技能などを身に付けるようにすることが大切です。

3. 単元目標

県内の伝統や文化について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目し、見学・調査したい地図などの資料で調べたりしてまとめ県内の年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、地域の人々が受け継いできことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解するとともに、主体的に学習問題を追究解決したり、学習したことを基に、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちができることを考えようとしたりする態度を養う。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組について見学・調査したり地図などの資料で調べたりして必要な情報を集め、読み取り、県内の文化財や年中行事の様子を理解している。</p> <p>②調べたことを年表などにまとめ、文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力、地域の人々の願いにより、文化財や年中行事が受け継ぎ保存されていることについて理解している。</p>	<p>①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して問いを見出し、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。</p> <p>②文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、文化財や年中行事を受け継ぎ保存していることの意味を考えたり、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりして表現している。</p>	<p>①県内の主な文化財や年中行事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちができることを考えようとしている。</p>

※今回の指導計画例では、以下のような視点で単元を構想しました。

- ①～② 単元の導入では、「わたしたちの神奈川県」の年中行事や文化財を扱う資料、各学校の地域副読本などを活用しながら、単元を見通す学習問題を設定しています。
- ③～⑤ 年中行事は「湘南ひらつか七夕まつり」を事例に挙げ、調べています。
- ⑥～⑦ 文化財は「小田原城」を事例に挙げ、調べています。
- ⑧ 単元の学習問題の解決をするまとめの時間では、2つの事例について分かったことを同じ視点で表に整理し、共通点を見出しながらまとめることができるようにしています。
- ⑨ 「選択・判断」する場面では、身近な地域の年中行事や文化財を通して、保護したり継承したりするために自分たちができることを考えることができるようにしています。

どの事例を取り上げるか、時数の扱い方については、各学校の実態に合わせて精選をしてください。また、身近な地域の事例を取り上げる場合には、「県内の様子を捉える」という視点を単元の構想に位置付けてください。

5. 指導計画（9時間扱い）

単元の構想と予想される児童の反応	備考（○）と具体的評価規準
<div data-bbox="159 264 874 421" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①②県内の年中行事について、問いを見出し、予想や学習計画を立て主体的に学習問題を追究し、解決しようとするようにする。</p> </div> <div data-bbox="159 443 874 492" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>見に行こう神奈川の祭り「わたしたちの神奈川県」</p> </div> <div data-bbox="159 515 874 564" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>残したい神奈川県の文化財「わたしたちの神奈川県」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県にはたくさんのお祭りや文化財があるんだね。 ・私が見に行ったことのある年中行事や文化財もあるよ。 <div data-bbox="159 698 842 766" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ひらつか七夕まつりの始まりと来場者数の変化</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ひらつか七夕まつりは昭和 26 年に始まっているんだね。 ・最初は 10 万人だった来場者数も平成 5 年には 361 万人と、過去最高の来場者数を記録して、全国でも有名な七夕まつりになったんだね。 <div data-bbox="159 990 651 1057" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>小田原城の内容と来場者数の変化</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・小田原城は 1400 年の中頃からあるんだね。 ・一度解体された天守閣は昭和 35 年に再建されたんだね。 ・平成 28 年には年間入場者数が過去最高の 77 万人を超えたんだね。 <div data-bbox="159 1272 794 1339" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>ひらつか七夕まつりと小田原城の様子の写真</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらも長い間地域の人たちに大切にされてきたんだ。 ・どのような願いをもって、どうやって今まで受け継いできたのかな。 <div data-bbox="159 1496 874 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>（単元を見通す学習問題） 年中行事や文化財はどのような願いがあって、どう受け継がれているのだろうか</p> </div> <div data-bbox="159 1697 667 1751" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>予想をもとに、学習計画を立てよう</p> </div> <p><調べること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちはどうやって、年中行事や文化財を続けたり残したりしてきたのかな。その取り組みについて調べよう。 ・今まで続けたり、残したりするためには、たくさんの苦労があったのではないかな。人々の努力や協力について 	<ul style="list-style-type: none"> ○県内には年中行事や文化財多くあることに気づき、関心が高まるようにするために、神奈川県はどこでどのような年中行事や文化財があるのかがわかる分布図を示すようにする。 ○「年中行事」「文化財」の意味を説明するようにする。 ○身近な地域にも年中行事や文化財が多くあることに気付くことができるようにするために、各学校の副読本などを活用しながら、子ども達にとって身近な地域の年中行事や文化財にもふれるようにする。 ○年中行事や文化財は長い時間をかけて、今に至るまで保存・継承されてきていることに気付くようにし、その理由や願いについて問題意識をもてるようにする。 <p>（思－①）</p> <p>県内の年中行事について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して問いを見出している。</p> <p>（態－①）</p> <p>県内の年中行事や文化財について、学習問題の解決に向けた予想や学習計</p>

調べよう。

<調べ方>

- ・資料や地図を使って調べよう。

ひらつか七夕まつりや小田原城のことを調べて、年中行事や文化財が受け継がれてきた理由を考えよう。

③④ひらつか七夕まつりについて年表資料や文章資料から調べ、苦難を乗り越えながらも、受け継がれ、地域の人々に親しまれてきたことを分かるようにする。

ひらつか七夕まつりはどのような願いがあって、どう受け継がれているのだろうか

ひらつか七夕まつりのあゆみ（公式 HP）

ひらつか七夕まつりパンフレット

ひらつか七夕まつりの様子が分かる動画

- ・戦争で焼け野原となってしまった平塚の復興を願って、仙台の七夕まつりに習って始められたんだね。
- ・はじめは商店街などの商業に関わる人々によって行われていたけど、昭和32年からは平塚市が主催するようになったんだね。
- ・東日本大震災の影響で、開催が危ぶまれたこともあったけど、商工業に携わる地域の人々と市が協力して、市民まつりとして続けられていったんだね。

ひらつか七夕まつりは戦後の復興を願って始まり、平塚市や地域の商工業に携わる人々の協力によって多くの人が参加する大きなお祭りとなり、地域の人々に大切にされてきたものなんだね。

⑤地域の人々が受けついできたお祭りを継承する取り組みや地域の人々の願いについて考えるようにする。

「安心・安全な開催を目指す湘南ひらつか七夕まつり運営方針」ここまでの祭りの経過（変化）

- ・来場者、商売する人、飾りを提出する人など、すべての人にルールを示しているね。

画を立て、解決の見通しをもっている。

○時間の経過を実感できるようにするために、資料からわかったことを年表形式にまとめるようにする。

(知-①)

ひらつか七夕まつりの起源や祭りの様子について資料から調べたことを基にして、ひらつか七夕まつりが古くから続き、地域の人々に親しまれてきたことを理解している。

- ・ どうしてそこまでして、ルールを守ることをもとめているのかな。

平塚市や実行委員会は、なぜ、参加者全員にルールを守るようお願いしているのだろうか

- ・ ルールを守らない人がいるとどうなるのかな。
- ・ だれかに迷惑がかけると、おまつりを続けていくことができなくなってしまうよね。
- ・ 七夕まつりを楽しみにしている人や地域の発展のためにも、続けていくためにできることをみんなでルールを守っていかなくてはいけないよね。

実行委員長の話

- ・ 平塚に住む地域の人々のことも考えているんだね。
- ・ 平塚の産業の発展や平塚を全国に紹介する新たなお祭りを開催する意味をもって続けていけるようにするためには、大切なルールなんだね。

SDGs への取組

- ・ プラごみをなくす新たな取組を始めたんだね。
- ・ お祭りの課題と向き合って、新たなことにチャレンジすることで、お祭りを続ける新たな意味が生まれてくるね。

平塚市や実行委員会は、これからも地域や参加する人々にとって安心・安全なお祭りとして続けていけるようにするために、参加者全員にルールを守るようお願いしているんだね。また、新たなチャレンジをすることで、これからも受け継がれるお祭りになるよう、努力をしているんだね。

⑥小田原城の保存への取組について年表資料や文章資料から調べ、小田原城再建の歴史的な変遷や、保存継承の取り組みなどについて分かるようにする。

小田原城の3D動画

小田原城年表

- ・ お城は、一番偉い人が、そのまちや人々を守るためにつくられたものなんだな。
- ・ 明治時代に建物が解体されたり、関東大震災で石垣が全壊したりしたのに、天守閣を含めた小田原城全体を再建

○七夕まつり開催の中心となっている方々に取材をし、思いや願いを文章や動画資料にしたり、直接お話を聞く機会を設けたりすることができるようにする。

(思-②)

歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考えている。

していったんだね。

- ・「平成の大改修」を行い、さらにきれいになったんだね。その結果、入場者数が増えたんだね。
- ・500年前の城をどうして今も残すことができたのかな。

500年前の小田原城をどのように今に残すことができたのだろうか

- ・昔の資料がしっかりと残っていたのかな。
- ・わからないこともいっぱいあったのではないかな。

観光課の方の話

- ・500年前のお城のつくりやあった場所、方角などがわかるのは、発掘調査を地道に行っている人たちがいたからなんだね。
- ・古い資料をたくさん調べたり、他の県などの資料もたくさん調べたりして、昔のまちの様子や生活の細かいところまで分かるようになってきたんだ。
- ・でも、それがわかっても、誰が実際に元通りにお城を作るのかな。

左官職人・宮大工の方の話

- ・高い技術を代々受け継いでいるから、古いものでもそっくり同じように作れてしまうんだね。
- ・今ではほとんど無い技術だったり、できる人が少なくなっていたりする技も、それを受け継いできた人たちのお陰で小田原城は当時のまま再現されたんだね。

500年前の小田原城を今に残すことができたのは、古い資料を熱心に研究している人がいたり、それを正確に再現できる左官職人や宮大工の方々が受け継がれてきた高い技術があったりするからなんだね。これらの人々の、小田原城再建に向けた思いや努力が伝わってきたよ。

⑦文化財を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、文化財を受け継ぎ保存していることの意味を考え表現するようにする。

小田原城 年間イベントや新しい展示施設

- ・小田原城では、年間を通してたくさんのイベントが開催

○ホームページなどを活用しながら、保存への取り組みや難しさが理解できるようにしていく。

(知-①)

文化財の歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組について資料で調べ必要な情報を集め、読み取り、県内の文化財の様子を理解している。

され、多くの人が訪れているんだね。

- ・平成の大改修で、新しい展示施設や子どもが体験できる施設がつくられたんだね。
- ・どうして、そのような取組が行われているのかな。

なぜ、小田原城では多くのイベントが行われたり、新しい展示施設をつくったりしているのだろうか

- ・ひらつか七夕まつりと同じように、小田原城をこれからも残したいと思っている人が多くいるのではないかな。
- ・小田原城の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたいのではないかな。

小田原市都市計画・景観条例

- ・小田原の人々は小田原城の歴史を大切に、みんなで保存していく取組をしているんだね。
- ・小田原城を保存していくことは小田原のまちの発展にもつながっているんだね。

観光課の方の話

- ・まち歩きができるアプリや動画をつくって、さらにたくさんの方が小田原に来て、小田原や小田原城の魅力を感じてもらえるように努力しているね。
- ・小田原城を保護するために、ひらつか七夕まつりと同じように、様々な人が努力していかなくてはならないね。

小田原城では多くのイベントが行われたり、新しい展示施設をつくったりしているのは、たくさんの方々に小田原城や小田原の歴史やすばらしさを伝えるために行っているんだね。そのために、小田原市や地域の人々が協力して、小田原城を保存するために努力してきたんだね。小田原城に行った時には地域の人々の思いも考えながら見に行きたいな。

⑧学習したことをもとに、文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力、地域の人々の願いにより、文化財や年中行事が受け継ぎ保存されていることについて分かるようにする。

(単元を振り返る学習問題)

年中行事や文化財はどのような願いがあって、どう受け継がれているのだろうか

○小田原城の保存や地域の発展への取り組みの中心となっている方々に取材をし、思いや願いを文章や動画資料にしたり、直接お話を聞く機会を設けたりすることができるようにする。

(思-②)

文化財を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、文化財を受け継ぎ保存していることの意味を考え、適切に表現している。

調べてきたことを表にまとめよう

- ・始まった由来や時期は違っても、それを大切に守ろうと努力してきた地域の人々がいたね。
- ・途中でなくなりそうになっても、その地域の発展を願って受け継いだり保存したりできるように、多くの人々が協力して取り組んできたんだね。
- ・まちの発展や地域をよりよくしようとする人々の思いや願いがあったからこそ、年中行事や文化財は守られてきたんだね。

**年中行事や文化財は地域の人々の歴史を大切にす
る思いや地域を発展させたいという願いがあって、市や地
域の人々が協力して守り続ける取り組みをしていたよ。
だから、今に受けつがれてきているんだ。**

⑨学習したことをもとに、文化財や年中行事を保存
したり受け継いだりするために、自分たちができる
ことや協力できることを考えるようにする。

地域副読本 年中行事や文化財

- ・私たちの地域にも多くの年中行事や文化財があったね。
- ・私たちの地域の文化財や年中行事も私たちが守っていかないとなくなってしまうかもしれないね。
- ・地域の年中行事や文化財を未来へ受け継いでいくために、私たちは何をしておくことができるのかな。

自分たちの地域の年中行事や文化財を未来に受け継
いでいくために、私たちにできることはなんだろうか

- ・まずは、自分たちの地域の年中行事や文化財の由来を知って、参加したり学んだりしていきたいな。
- ・参加するときには、そのお祭りが続いていくように、ルールやマナーを考えていかないといけないな。
- ・自分たちの地域の発展のために努力してくれている人々の思いを大切にしていきたいな。

**地域の人々の願いや努力を考えながら、私たちが年中
行事に参加したり、文化財を大切にしたりしたいな。**

**自分たちの地域の年中行事や文化財を未来に受け継
いでいくために、私たちができることをしていくことは
自分たちの未来を守ることもつながっていくんだね。**

(知-②)

分かったことを表にまとめ文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力、地域の人々の願いにより、文化財や年中行事が受け継ぎ保存されていることについて理解している。

○この指導計画例では、身近な地域の年中行事や文化財を詳しく調べる時間はないが、生活科や総合的な学習の時間と関連付けたり、参加したり見た入りした経験を生かしたりして、考えていけるようにする。単元と並列して、自主的に調べておくようにすることもできる。

(思-②)

学習したことを基に、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり、選択・判断したりしている。

(態-②)

学習したことを基に、地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちにできることを考えようとしている。